



2021年 2月12日
第96号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横地申
第5号

「2021年3月ダイヤ改正」

2月8日

に関する申し入れ団体交渉を行う！①

1. 各区所における乗務職の担当業務別（運転士・車掌）の標準数を示すこと。

会社回答：これまでも標準数については、職名を踏まえ示しているところである。

組合：現段階も運転士、車掌の標準数は示すことができないのか？

会社：そもそも職名の中で示している。いわゆる担務と言われている運転士、車掌として管理していない。

組合：改めて乗務職という形で示された。標準数の変更になったところだけが示されているが、乗務職と職名が変わったので全職場の標準数を示すべき。

会社：職名が変わっただけなので、担務としての運転士、車掌は現在もある。職名が変わったからと言って示す考えはない。基本的なところで必要な要員数は配置している。

組合：区所所属ではない社員・企画部門との兼務、地区のプロジェクト等、そういう要員はどちらの要員になるのか？

会社：主たる業務がどちらにあるのかで判断する。

組合：業務がそれぞれ担務で違う。できる・できないがある状況で、乗務係として必要な要員数は配置されているけども、職場で苦労している現実もある。担務を担える人の数は示すこと。

会社：現状、担務が分かれているので、少なければ必要な要員を確保していくとの考えは変わらない。標準数と言えば乗務係として管理をしているので、車掌、運転士というふうに分かれて管理はしていない。

2. 終電繰り上げに伴う保守間合いの拡大による、作業効率の向上の度合いについて示すこと。

会社回答：機械化推進による労力軽減と工期短縮による作業員の働き方改革、改良工事の施工能率向上が期待できると考えている。

組合：回答について具体的に示すこと。

会社：機械化の推進による作業員の労力の低減、工期の短縮により作業員の働き方改革、ホームドアなどの安全設備の導入により安全性が向上すると考えている。度合いについてはこれから試算していくものであり、数字で示すのは難しい。

組合：設備の社員やパートナー会社の社員の意見など検証していく必要がある。

会社：引き続き利便性の向上、安全性の向上、サービスの向上、鉄道工事における生産性の向上に引き続き取り組んでいく。

組合：ダイヤ改正後は車両運用も含めて変更するのか？

会社：終電繰り上げを盛り込んだ車両運用になっている。

3. 乗務行路の睡眠時間および食事時間の拡大を図ること。

会社回答：乗務割交番作成規程に基づき作成している。

組合：総合的に見て改善されているか？

会社：これまで検証交渉等頂いている意見があり、前回の改正で改善できなかったところ等、関係する支社・区所と検討してきた。列車ダイヤも変わってくるので、できるところ・できなかったところもあるが、引き続き勉強していく。睡眠時間は区所によって増減はあるが、大きく増えているところもあれば、数分のところもある。平均なので区所の平均で言えば増えているところもある。行先地の時間については、多少の増減はあるが大きく減少をしているところはない。

組合：様々な意見を聞いて検討してきたことは確認する。

②へ続く